

2017年2月23日 木曜日

意見交換会



シンポジウム顧問の安田先生からご挨拶を頂き、愛媛県副知事上甲俊史氏よりご来賓の挨拶を頂いた。乾杯の挨拶は四国総通局長佐藤裁也氏により行われ意見交換会が開催された。

(安田先生) セキュリティはこれまで追いかけてこのようなところがあったが、ホワイトリストにより OS もアプリも保護されるような流れになるかもしれない。次世代のセキュリティを日本の技術でカバーして、セキュリティが日本の一大産業になることを期待している。

(上甲副知事) 今回のシンポジウムを通じて情報セキュリティの人的ネットワークを構築し、参加者の技術の向上につながることを祈っている。道後温泉や内子・大洲・宇和などの古い町並み、愛媛の名産をご賞味ください。

ナイトセッション1



岡村久道氏、川口弘行氏、初見卓也氏を座長として「自治体セキュリティ強靱化」をテーマとしたナイトセッションが開催された。

岡村先生から問題提起から自治体のセキュリティ強靱化について、川口市の初見さんから川口市の現状について諦めたことも含めてプレゼンが行なわれた。セ

キュリティのサービスとしては、自治体専用ではなく、民間企業も利用できるような一般的なサー

ビスでなければ使えない。そのようなサービスをベンダーには期待しているということだった。また、どのような脅威に効果的か、どのような脅威に無力か、対策はあるのか、何かあったら何ができるのかを考えておく必要があるというお話もあった。

次に佐賀県の川口さんから、情報のレベルに応じたネットワーク分離や無害化の話があり、情報の向きによって情報レベルが異なるといった解説がされた。またセキュリティベンダーへの問いとして、いくつか問題提起も行われた。さらに佐賀県で発生した学校教育ネットワークへの不正アクセス事件についても取り上げられ、セキュリティは技術だけではなくマネジメントも重要であり、技術に偏重してマネジメントが空洞化しないようにという提言が行われた。またベストプラクティスよりもセオリーが重要というお話もあった。質疑では情報の棚卸に関する質問などがあり活発な意見交換が行なわれた。

ナイトセッション2



平田真由美氏、淵上真一氏を座長として「言うのは楽だが育たない～人材育成の鷲谷はあるのか～」をテーマとしたナイトセッションが開催された。

今後必要になるセキュリティ人材像は三つ挙げられ、一つ目は高度セキュリティ人材、二つ目は安全な情報システムを作る技術を持つ人材、そして三つ目はユー

ザー企業の社内セキュリティ担当の人と連携する人材である。IT 業界の人材不足とは、ホワイトハッカーのような高度セキュリティに携わる人が足りない事を叫ばれる場合が多いが、より足りていないのはユーザー企業内で業務アプリケーションレベルに携わる人であるという意見が提示された。

実際に各種業界による取り組みの姿勢も多少見られるが、解決出来ているとは言えない。その理由について様々の立場の人を交えた論議が熱く交わされた。セキュリティにかかるコストの比重、ベンダーへの丸投げなども焦点に挙げたが、何より教育の難しさ・機会の無さが論点として目立った。またセキュリティ部門の人だけでなく、システムを使う人皆のコンセンサスが取れているか

が、問題意識の差を埋める 1 案として挙げられた。

ナイトセッション 3



井上博之氏、佐々木崇光氏を座長として「コネクテッドカー・セキュリティ」をテーマとしてナイトセッションが開催された。

セッションでは、日本の基幹産業の自動車のセキュリティに関し、脅威・対策・利益の 3 つの点について検討された。脅威については、お金になりやすいランサムウェアの脅威、自動運転の事故の際の保険などが挙げられた。ある 1 つの会社の車の脆弱性を見つけ、その会社の車による事故を増やし、会社の信用を落とすようなことがあるかもしれないという意見もあった。そもそもネットワークと基幹システム（自動車）を複合させる必要がないのではないかという意見もある。

車は人命に関係するものであるため、情報セキュリティ対策は必須であり、その対策をしていないものは世の中に出してはいけない。運転者以外の被害者にある歩行者についても決して忘れてはいけないことも述べられていた。

ナイトセッション 4



杉浦芳樹氏、福田かおり氏を座長として「CSIRT が動かない～そもそもなんだっけ～」をテーマとしてナイトセッションが開催された。

CSIRT の役割としては、情報収集・予防対応などの予防、異常検知・対応、報告など事故対応、再発防止があげられる。

座長の会社では、情報収集を行い毎週ニュース（JPCIRT, IPA 関係の目立つ話など）を経営層に報告を書いた。そうすると役員、監査役などに情報セキュリティの重要性が認められた。この活動のおかげで社内の IT については CSIRT が頼られるようになった。

CSIRT で何をしなければならないかは、会社によって違うが、目的を考えることである。IT 人

材が足りていないといわれるが、結局は会社の業務を精通しており多少の IT 知識を持っていればよく、自分で考え、実行できる強い心をもつことが大事である。

CSIRT を動かすための参考として、ISOG-J による「セキュリティ対応組織の教科書 v1.0」が紹介された。必要になる機能、各機能が持つべき役割などを整理して公開されている。自分の会社で使いやすいものを選択して使えばいいのではないかとまとめられていた。会場の多くの参加者から会社における CSIRT 事例が紹介され、CSIRT に必要な能力・技術や人材育成について議論された。